２０２３年2月２日

日本の海岸線を歩く会　歩行報告書

報告者　：坂本　徹

１．概　要

歩行名称	北海道ブロック（３）
歩行区間	スタート地点：寿都町役場　　ゴール地点：　ＪＲ小樽駅
実施期間	２０２２年9月１２日（月）～9月１７日（土）
全歩行距離	１７８ｋｍ

２．メンバー表

No	役割・分担	氏　　名	年齢	歩行日数	備　　考
1	リーダー・企画・運転・会計	坂本　　徹	65	４日	ワンゲルＯＢ24 期
2	記録	蔵田　道子	74	４日	ワンゲルＯＢ15 期
3	記録	味沢　俊治	66	４日	坂本徹の大学１期先輩
4	記録・運転	岸田　英子	73	４日	坂本徹所属の山岳会会員
5	記録・運転	木下　隆史	64	４日	ワンゲルＯＢ24 期
6	記録	坂本　和子	59	４日	坂本徹所属の山岳会会員ＯＢ

３．歩行の概要

	月日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者
1	9/12	羽田空港昼便にて新千歳空港へ、札幌市内名所旧跡巡り	—	
2	9/13	寿都町役場→道の駅いわない	41.6 Km	メンバー表記載の６人
3	9/14	道の駅いわない←神威岬（逆歩行）	50.1 Km	同　上
4	9/15	神威岬→古平町役場	39.5 km	同　上
5	9/16	古平町役場→小樽駅	47.2 km	同　上
6	9/17	小樽名所旧跡巡り 新千歳空港夕方便にて羽田空港へ	—	
合　　計			178.4 km	

４．参加費・費用

（１）歩く会会費（参加費）　参加者延べ日数４日＊100 円（6 人分）　　合計　2,400 円

（２）一人当たりの費用

① レンタカー　(借料・保険 9,075 円、ガソリン 1,600 円、高速料金 600 円、駐車料金 300 円）11,575 円

② 宿泊料　1 泊目：ニューオータニーイン札幌 各自手配（飛行機と宿泊 1 泊分のパック商品に含む）

2 泊目：盃温泉 潮香荘（1 泊 2 食付き）　シングル 8,525 円、ツイン 7,975 円

3 泊目：岩内マリンホテル（1 泊 2 食付き）　ツイン 9,000 円

4 泊目：ホテル水明閣（1 泊 2 食付き）　シングル 9,900 円、ツイン 9,350 円

5 泊目：ホテルルートイン札幌北四条（1 泊朝食付き）　シングル 6,650 円、ツイン 6,250 円

宿泊料の合計　32,575 円～34,075 円

③ 飲食代　1 日目（9/12）夕食・交流会代　3,200 円

2 日目（9/13）夕食時飲み物代　300 円～500 円

3 日目（9/14）夕食時飲み物代　550 円

4 日目（9/15）夕食時飲み物代　600 円～1,200 円

5 日目（9/16）夕食・飲み物代　4,000 円

飲食代等の合計　8,650 円～9,450 円

④ 通信費・資料代・記録写真集代　3,000 円

⑤ 抗原検査キッド代　900 円

⑥ 旅行キャンセル保険　900 円

① ～ ⑥ 総　計（羽田空港までの交通費を除く）　57,600～59,900 円

（３）その他各自支払費用

① 交通費（羽田と新千歳空港往復チケットとホテル 1 泊付きパック商品など各自調達）　34,500 円

② 札幌→小樽（750 円）、小樽→新千歳空港（1,910 円）の JR 運賃、歩行中の昼食等は各自支払

５．歩き方

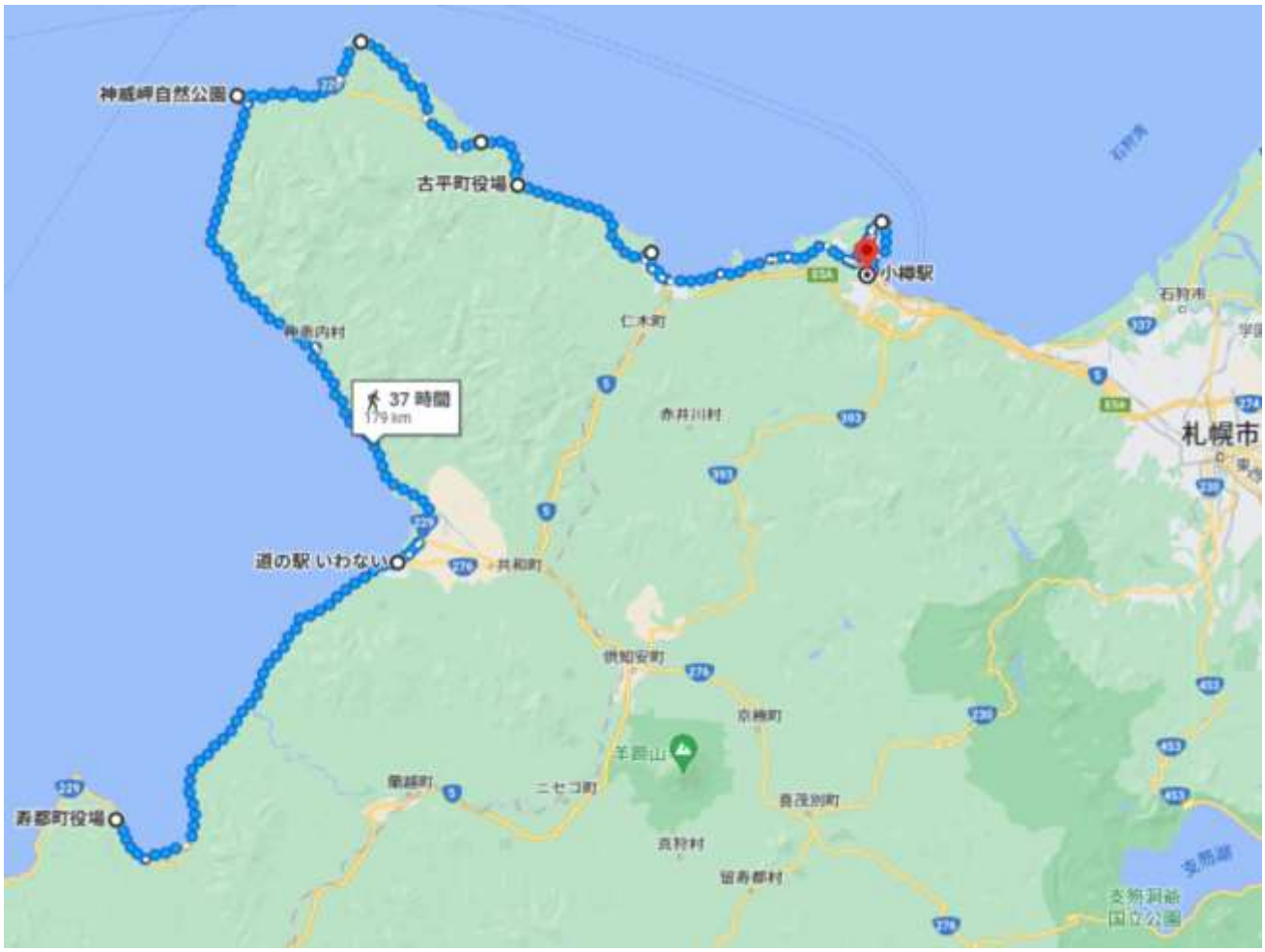
（１）歩行の班編成：3 班（各班 2 名）で分担・分割方式で歩行

メンバーの体力を勘案して、チーター班（歩行距離 15～22 km程度）とウサギ班（歩行距離 11～18 km程度）とカメ班（歩行距離 9～13 km程度）に区分して、メンバーの希望を考慮して決定しました。

班編成	班と歩行距離	班　長	メンバー
9 月 13 日(1 日目) 歩行距離 41.6 km	チーター班　21.1 km	坂本　徹（運転）	味沢 俊治
	ウサギ班　11.1 km	岸田 英子（運転）	坂本 和子
	カメ班　9.4 km	蔵田 道子	木下 隆史（運転）
9 月 14 日（2 日目） 歩行距離 50.1 km	チーター班　21.7 km	坂本　徹（運転）	木下 隆史
	ウサギ班　17.6 km	味沢 俊治	岸田 英子（運転）
	カメ班　10.8 km	蔵田 道子	坂本 和子
9 月 15 日（3 日目） 歩行距離 39.5 km	チーター班　14.7 km	坂本　徹（運転）	岸田 英子
	ウサギ班　11.5 km	木下 隆史（運転）	坂本 和子
	カメ班　13.3 km	蔵田 道子	味沢 俊治
9 月 16 日（4 日目） 歩行距離 47.2 km	チーター班　22.3 km	味沢 俊治	木下 隆史（運転）
	ウサギ班　15.7 km	坂本　徹（運転）	坂本 和子
	カメ班　9.2 km	蔵田 道子	岸田 英子

（２）歩行の効率化のためレンタカー（セレナ８人乗り）を併用

（３）歩行ルート（次の地図のとおり）



６．歩行の詳細

（１）リーダー報告：坂本 徹

北海道ブロック第３回歩行は、2021 年９月に第１回、2022 年６月に第２回歩行を実施し、以後初秋の９月と梅雨のない初夏の６月に年２回実施していく計画とし、第３回歩行は 2022 年９月 12 日～17 日に実施予定としていました。

第３回歩行実施の１か月前のコロナ感染予想は、第７波が近々ピークアウトし、以降漸減傾向が見込まれることから、コロナ感染防止対策を講じて計画どおり実施することとしました。なお、コロナ感染再拡大による歩行実施延期の可能性を考慮して旅行キャンセル保険を掛けましたが、幸いにも保険適用に至りませんでした。

参加者は、第１回と第２回歩行参加者の蔵田道子さん、味沢俊治さん、坂本徹の３人、第２回歩行参加者の岸田英子さんに、初参加の木下隆史さんと坂本和子さんの２人が加わって、６人となりました。第１回・第２回歩行と同様に３班編成で、計画どおり寿都町役場からＪＲ小樽駅まで総距離 178 kmを完歩できました。

第３回歩行は、北海道歩行方針（離島等歩行・名所旧跡巡りを設定）に基づき、今回歩行では札幌と積丹

半島と余市と小樽の名所旧跡巡りを行いました。

第 3 回歩行のゴール地点の小樽駅にて集合写真

日本の海岸線を歩く旅は、「日本再発見の旅」「人との出会いの旅」「参加者の交流と結束によるチーム力発揮の旅」と考えています。参加者は、北海道の絶景や名所旧跡などに出会い、現地の人々と交流し、北海道の歴史を垣間見て、新たな発見があったことと思います。また、お互い交流を深め、健康で歩ける幸せを感じながら歩く旅ができたと思います。

コロナ対策として、コロナ抗原検査キット（自身で唾液を採取して約 10 分で検出）により、出発前の 9 月 6 日と 9 月 10 日、歩行開始初日の 9 月 13 日に検査を実施し、全員陰性確認をしました。

今回の歩行ルートには長いトンネルが多くありました。第 2 回歩行と同様に単調なトンネル歩行では歌を歌いながらの歩行を試みましたが、車の通行量が多かった 9 月 13 日と 16 日の歩行区間では、トンネル内で十分に歌を歌って楽しむことはできませんでした。また、トンネル内での安全確保のため反射安全ベストを着用し、赤色 LED 点滅誘導棒を持って歩行しました。

今回も第 1 回・第 2 回と同様に参加者間の連絡手段として、グループ LINE を作成しました。各班から歩行状況と写真が頻繁にアップされて、一緒に歩行しているという一体感を持つことができました。

私は、1993 年～1998 年の 5 年間札幌市に在住して道内を巡りましたが、今回歩行したところは訪れる回数が少なかった地域です。今回歩行目線で見ることができて、多くの新しい発見がありました。

なお、札幌在住時の 1996 年 2 月に起きた「豊浜トンネル岩盤崩落事故」の慰霊碑を見ることができました。崩落現場は入り江状にやや奥まっているため、現在は両側の海岸線からは現場方面を望むことはできませんでした。また、海岸線は切り立った崖のため、崩落現場への到達は徒歩では困難で、船でしか行けません。現在の豊浜トンネルの古平側坑口（旧セタカムイトンネルの古平側坑口）脇には、防災祈念公園として駐車場とトイレが新設されていました。敷地内には慰霊碑が設置され、誰でも常時訪れることができるほか、

トイレ隣には事故概要とトンネル防災に関する展示コーナーも併設されていました。
「豊浜トンネル岩盤崩落事故」では21名が巻き込まれ、生存者はそのうち1名だけでした。
犠牲者の遺族のうち7名が、崩落の予兆があったにも関わらず、適切な対策を取らなかったのが事故の原因と主張して、国を相手取って総額約6億4000万円の損害賠償を求める民事訴訟を起こしました。札幌地裁は遺族側の訴えを認め、2001年3月に国に対して総額4億5000万円の支払いを命じる判決を言い渡しました。的確な調査と対策が行われなければ、落盤事故に繋がるという教訓を残しました。

（２）行動記録

≪１日目（９月１２日）≫　天気 曇り時々晴れ：昼便の飛行機で羽田空港から新千歳空港に移動、レンタカーで札幌市に移動して市内散策

参加者5人（前泊している味沢さんを除く）は、11時10分羽田空港第2ターミナル4階の飲食店に集合して昼食、羽田空港（AIRDO 023便）12時50分発、新千歳空港14時20分着の飛行機で移動。新千歳空港からオリックスレンタカーの送迎バスに乗って10分程で新千歳店に到着、ここは各レンタカー会社の新千歳店が密集しており、広大な敷地に多数のレンタカーが置かれており、壮観であった。

羽田空港から搭乗したAIRDO 023便

レンタカー（8人乗りセレナ）を借り受けて、札幌駅近くのニューオータニーイン札幌へ。チェックイン後に、札幌市時計台、大通公園、テレビ塔、すすきの歓楽街（東京以北で最大の歓楽街）を巡り市内散策した。

すすきの歓楽街の近くにあるビアホールレストラン狸小路店にて18時00分から夕食・交流前夜祭を行った。前泊していた味沢さんとお連れの方と夕食会場で合流した。交流前夜祭では、サッポロビールと北海道料理を堪能しながら自己紹介を行い、初対面の方ともすぐに打ち解けて互いに親しくなった。

交流会後は、夜景となった札幌市時計台と大通公園に立ち寄って、ホテルに戻った。

ニューオータニーイン札幌は、札幌駅・地下鉄大通駅などのアクセスポイントや時計台・旧道庁・サッポロファクトリーなどの観光スポットにも近く、観光にも最適のシティーホテルであった。　（坂本徹 記）

札幌市時計台

夜景となった札幌市時計台と大通公園・テレビ塔

≪２日目（９月１３日）≫　天気 曇りのち晴れ：寿都町役場ー41.6㎞→道の駅いわない

ホテルの朝食は6時30分から、各自朝食を済ませて7時30分にホテルロビーに集合した。別のホテルに宿泊した味沢さんは既にロビーに集合していた。

ホテル出発前に集合写真を撮影

レンタカーで第2回歩行の終点の寿都町役場に向かった。通勤時間帯の交通渋滞を避けるため、7時30分に出発。レンタカーは、初めは坂本が運転したが、レンタカーに慣れてもらうため仁木町で岸田さんに交代、「道の駅いわない」で木下さんに交代した。「道の駅いわない」からは、本日歩行する国道229号の状況を見ながら進み、目的地の寿都町役場には11時05分に到着した。レンタカーの走行距離は136㎞だった。

役場の駐車場には平日のためたくさんの車が停まっていた。第2回歩行で全員の集合写真を撮影した場所にも、車が駐車してあったため、どうにか斜めから集合写真を撮影した。(坂本徹 記)

今回歩行にてスタート地点で撮影した集合写真（上）

前回歩行にてゴール地点で撮影した集合写真（右）

【チーター班：寿都町役場－21.1㎞→海神社】メンバー：坂本徹、味沢俊治

11 時 25 分出発。初日からいきなり、21 ㎞の歩行。出発点の寿都町役場から一直線に段丘を海岸まで下る。段丘上に新しい町が広がっている。最初は港に沿いながら国道に出て、朱太川の河口に近い橋をわたる。水量の多い美しい川で、中州の上を通過して対岸に渡る。キャンピングカーの旅人と一緒になり、橋の上から鮭の遡上を見る。ここからは砂浜を 1.5 ㎞ほどひたすら歩く。

鮭が遡上していた朱太川の河口

砂浜をひたすら歩く

砂浜の最後に小さな潟湖をつくっている砂州の上に、カモメが群集している。我々が 20 メートルほどまで近づくと、合図の鳴き声とともにいくつかの群れに分かれて飛翔する。そして、そのまま海上に降りて浮かんでいる。ここで砂浜海岸は終わり、あとは海岸にへばりつくような国道をひたすら歩くことになる。

カモメの群衆

佐藤家漁場跡屋敷

途中、小さな漁港集落ごとに神社や寺があるも、時間が限られるため、立ち寄ることができなかった。歌棄（うたすつ）町にはニシンの漁場跡がいくつもあり、佐藤家漁場跡屋敷の外周をめぐる。崖に沿うように立てられ、石が配置され中庭がつくられていた。ゴールの海神社の手前は、島古丹というアイヌ地名と磯谷という和人地名が併存している。そこのバス停名が「旧磯谷診療所前」。かつてこの地に診療所があったらしい。

16 時 55 分海神社に到着、既にウサギ班がレンタカーでピックアップのため到着していた。(味沢俊治 記)

【ウサギ班：海神社－11.1㎞→雷電キャンプ場跡】メンバー：岸田英子、坂本和子

12 時 14 分レンタカーを降り、赤い鳥居と小さなお堂のみの海神社で、暑さをよけながら日陰で昼食を摂る。海の安全を祈願するためか、錆び錆びの大きな錨が直立している。

12 時 30 分歩行開始。大きな尻別川を渡り、橋のたもとで雷電スイカやくるくる回る魚の一夜干しを売っているお店を覗いて、13 時 20 分「道の駅蘭越町貝の館シェルプラザ」で休憩。暑いので建物の中に入って

１０分程休む。

スタート地点の海神社にて

海神社の錆び錆びの大きな錨

右手に風力発電の風車を見ながら国道を北上し、短いトンネルを越えてすぐ2745mの刀掛トンネルに入る。歩道にガードレールは無く、照明も片側しかなくて足元も暗く、巾も80㎝程。車が絶える事無く通り過ぎ、トンネル内で大反響、とても歌など歌える状況ではなかった。

40分程かけてようやく出口へ。振り返ると、刀を掛ける形の岩が逆光となって黒々としたシルエットを見せていた。道路右側の一段高い所には、既に閉館した雷電温泉の建物が残っており、「オーシャンビュー」を謳ったでであろう展望風呂もそのままだ。

14時56分『密漁禁止』の札がかかった階段の上部に腰掛けて、20分程大休止、昨日岸田さんが途中でゲットしてくれた果物を頂く。前方にはカスペノ岬が海に突き出している。

16時00分更に二つのトンネル（カスペトンネル638m、弁慶トンネル1048m）を通過、長かった刀掛トンネルに比べると物足りなかったとは岸田さんの弁。トンネルとトンネルの間は急な断崖になっていて、斜面に沿ってきれいに積まれた様に見える

「弁慶の薪積岩」らしきものも見えた。ほとんどのトンネルが左側の海に近い所に並行して古いトンネルの跡が残っていたが、入口は厳重に封鎖されていて、最後のゴール手前数十メートルだけ旧道の一部を歩くことが出来た。

16時11分雷電キャンプ場跡地の駐車場に到着。　　（坂本和子　記）

海に突き出しているカスペノ岬

雷電キャンプ場跡地の駐車場

【カメ班：雷電キャンプ場跡ー9.4㎞→道の駅いわない】メンバー：蔵田道子、木下隆史

カメ班のルートはいきなり3㎞（実際には3570m）の雷電トンネルから始まるので、出発前に昼食を済ませて行くことにした。駐車場の端にコンクリートの塀があり僅かな日陰もあったので、塀に寄り掛かるように草むらに座り、海を眺めて昼食を取った。蟻がいて少し気になった。

13時20分出発。トンネルは今までより暗く（片側しか照明が点いていない）、騒音が大きく、歩道も狭くとても歌を歌ったり、おしゃべりして歩けるものではなかった。壁に取付けられた両出口からの距離の表示板を見るのと、出口に出た時のことを楽しみに、ただひたすら歩いた。

14時35分トンネルから出た所で休憩を取った。すぐに次の短いトンネルを二つ抜けた後は、川や道がルート上に交差しているのを一々確認せずに歩いたため、現在地が解ったのは郵便局の所で15時50分だった。そこから5分もすると道の駅まで2㎞の道路標識がありほっとした。海岸線に近い道ではあったが歩道は、右側のみ内陸側であり、私は1度も海よりの側に行かなかった。木下さんは行く手に見えた泊原発の写真を撮ったりするので道路を行ったり来たりしていた。私のその道の印象と言えば、カラスが多かったこと、消火栓が道沿いに標識と共にたくさんあったことくらいだった。他には山並みがニセコから続いているのか、またスキー場らしき斜面も見え気になった。岩内の街に入ってからは道の記憶が曖昧で木下さんのこの道で大丈夫だと思うよと言う言葉を信じてついていった。16時30分、ゴールの道の駅に到着した。　　（蔵田道子 記）

雷電トンネルの手前にて

ウサギ班は16時15分レンタカーを回収し、チーター班のゴール地点の海神社に移動。16時55分チーター班をピックアップし、道の駅いわないに移動。17時30分カメ班をピックアップし、泊村の西積丹に位置する宿舎の潮香荘へ。幸運にも宿舎到着直前に日本海に沈む夕日を見ることができた。

17時55豊かな緑に包まれた小高い丘の上に建つ「潮香荘」到着。盃温泉のなかで唯一海に面した温泉旅館で、露天風呂はもちろん、客室からも日本海を一望することができた。料理には目の前の泊村盃漁港で水揚げされる新鮮な魚介類が提供された。（坂本徹 記）

日本海に沈む夕日

≪３日目（９月１４日）≫　天気 曇りのち晴れ：道の駅いわない←50.1㎞ー神威岬

神威岬への遊歩道を全員で歩行して岬先端に行くこと、本日の宿舎が「道の駅いわない」の近くであることから、逆コースとなる神威岬から「道の駅いわない」に向って歩行することとした。

8時30分宿舎を出発、途中コンビニに立ち寄って本日歩行する国道229号の状況を見ながら進み、9時35分神威岬駐車場に到着した。大海原へとダイナミックにせり出した神威岬の先端までは女人禁制の門から約770m。両側に日本海の雄大な眺めが広がる遊歩道「チャレンカの小道」をたどっていく

朝、潮香荘の前にて

と、20 分ほどで周囲 300 度の丸みを帯びた水平線と鋭い神威岩を見ることができる。
9 時 40 分駐車場発、遊歩道を進み神威岬灯台（1886 年 8 月初点灯：北海道の現存する灯台では 5 番目に古いもの）に立ち寄り、10 時 10 分神威岬の先端に到着。荒々しい日本海のしぶきにつつまれた神威岩の絶景をみることができた。神威岬の展望台を経由して 10 時 55 分駐車場に戻る。　　（坂本徹 記）

神威岬遊歩道の入口、女人禁制の地の門がある

神威岬への遊歩道

神威岬から神威岩を眺望する

神威岬の突端にて

【チーター班：神威岬駐車場ー21.7 km→道の駅オスコイ！かもえない】メンバー：坂本徹、木下隆史

11 時 05 分神威岬駐車場出発。行程的には、神威岬が本日の終点であるが、最初に全員で神威岬を見学したので、昨日の終点に向かう逆方向の歩行。全行程 21.7km のうち約 12km と、半分以上はトンネルの中である。

神威岬駐車場から国道 229 号に出て、早速最初の神威岬トンネル 703.5m。トンネル内の歩道は片側が幅広になっていて歩きやすい。持ってきた歌集を出し、坂本さんが歌を選び、それを歌いながら歩く。いい年した男が２人、歌を歌いながら歩く姿など、人様には見せられたものではない。それでも、ひたすら半円形の暗闇を歩くには気がまぎれたので良かったと言える。

スタート地点の神威岬駐車場にて

最初のトンネルを抜けた海岸線は、風が強く、波も荒い。そんな風景もあっという間に終わる。再び、神岬トンネル 1162.5mへ。抜けて、13 時。まだ波は荒い。12 時 40 分「ソーラン節のふるさと積丹」石碑の駐車場で昼食とする。この石碑で、ソーラン節がここ積丹町のニシン漁に発することを知る。

神岬トンネル手前にて

「ソーラン節のふるさと積丹」の石碑

その後、積丹トンネル 765m、大天狗トンネル 639m、西の河原トンネル 1834mと続く。トンネルを出て、しばらく 2ｋｍぐらいの海岸線を歩く。まだ風は強い。海岸の岩で打ち上げられる白い波しぶきが轟音とともに散る。

打ち上がる波しぶき

振り返って神威岩と神威岬を遠望

次のトンネルは、窓岩トンネル 565mであるが、もうこの程度の長さのトンネルは気にならない。そうこうしているうちに、また 2106mの川白トンネルに入る。トンネルを抜けると柵内漁港がある湾が広がる。ここからは急に波が穏やかになる。そこから、マッカトンネル約 400m、キナウシトンネル 1008m、大森トンネル 2509mと出ては入ってを繰り返す。トンネルとトンネルの間が短いので、ほぼ 4km くらいのトンネルに入っていた気分である。最後の大森トンネルを出ると、やっと目的地の「道の駅オスコイ！かもえない」に 17 時 15 分到着。道の駅は 17 時 00 分で閉館になっていた。閉館してはいるが、流木アートが置いてある建物内の玄関やトイレは使えた。（木下隆史 記）

流木アートの隣りに座る

【ウサギ班：道の駅オスコイ！かもえない－17.6 km→泊村立泊中学校】メンバー：味沢俊治、岸田英子

12 時 23 分神恵内村から泊村への歩行の開始である。道の駅「オスコイ！かもえない」にレンタカー駐車。岸田さん、ドライブインの流木人形と並んで記念撮影。東村山から来たハーレーの男性が横に座っている。そのまま国道を渡り、海を見ながら昼食。しばらく海沿いの国道を歩行。海岸段丘の崖にへばりついて伸びる国道に家屋が点在している。

大橋からの眺め

1 時間ほど行くと、弁財澗の断崖と島をつなぐように魚谷大橋と祈石大橋が架かっている。2007 年に開通した二つの橋からの眺めは絶品である。もしかしたら、車窓からの眺めとしては積丹半島随一かもしれない。高さ 50m ほどあるだろうか、足がすくむような場所をこちらは徒歩で。海の向こうに雷電、寿都、島牧方面が見える。眼下には、断崖にへばりつくように廃道と化した旧道が通り、封鎖されたトンネル跡がある。断崖と断崖の間にはいくつもの漁港があった。今では、崩れた岩壁だけがわずかにかつての人々の営みを語るだけである。

前日宿泊した盃温泉を通り、泊漁港に至る。原発ができるまで、ここがこの地域の中心だったはずだ。今では観光者用のトイレがたくさんある。原資は電源立地地域対策交付金である。原発マネーが作ったトイレは、「鴎の憚（はばか）り」「ヨットイレ」などと名付けられている。悪い冗談としかいいようがない。

「鴎の憚（はばか）り」トイレ

16 時過ぎ、草取りをしている 81 歳の女性から缶ジュースをいただく。ゴール間近で謎の建築物を探検。2 月に開業したばかりの新しいタイプのホテル、カルチャービレッジ。支配人の高島将人さんから案内してもらったあと、感動さめやらぬ中、ゴールの泊村立中学校に 18 時 10 分到着。

翌日、メンバーを再び当ホテルに案内することになる。　（味沢俊治 記）

【カメ班：泊村立泊中学校－10.8 km→道の駅いわない】メンバー：蔵田道子、坂本和子

12 時 00 分、泊中学校を出発。何処でお昼を食べようかと適当な場所を探して歩き出した。神社がありそうなので、そこを目標に歩いていると、すぐ手前に小さな入江があり、船を引き上げる為にコンクリートの坂になって一方が壁になっていた場所があった。丁度いい高さの位置の壁に腰掛けて、お昼ご飯を広げる。12 時 25 分から 13 時 15 分まで色々おしゃべりしながらゆっくりと食事をした。

スタート地点の泊中学校

食事を終えて、歩き始めてじきに今日唯一の長い堀株トンネルとなった。トンネルの海側に泊原発がある。原発往きの路線バス風を何度か見かけたが、関係

者以外も乗れるのだろうか？トンネルは昨日に比べれば、距離は短く、歩道の幅も広くガードレールもあるので並んで歩ける。車の音も少なく、話をしながら歩けた。昨日は歩いている人を車の中から見かけたが、今日はジョギングをして、行ったり来たりしている人がいた。ちょっと埃っぽくてガードレールにも埃が積もっているのに、よくやるなあと思い話しかけようと思ったが、怖そうな感じだったのでやめておいた。(後で納得することに)

トンネルを抜けると原子力 PR センター「とまりん館」が見え、トイレ休憩にちょうど良いと立ち寄った。せっかくなので少し見学していくことにして、2階に上がると原発建設時に出土した土器等の遺物が展示されていた。1階に戻ると受付の人から2時半から館長が館内の説明をしてくださること、資料と一緒にクリアファイルとボールペンが記念に頂けることの話を伺った。私たちはこれから岩内のホテルまで歩いて行かねばならず時間が無い事を告げると、ただちに開始してくださり、時間も短く済ませてくださると言われたので見学した。３・１１の事故以来、安全点検のために現在は稼働していないこと、原発の仕組み、

「とまりん館」の全景

使用済み燃料の処理問題など、原発はいろいろ問題の多いエネルギーではあるが、他のエネルギー源にしてもデメリットはあるわけで、組み合わせてやってゆくしかないのだろうか？

短く済ませてくださるとは言いながらも、とまりん館を出発したのは 15 時、１時間も過ごしてしまった。館長はマラソンをされるという話からトンネルの中で会った人物の話をすると、知り合いの警察の人かもということになった。トンネルは、冬は雪が無く、夏は涼しくて良いのだそうだ。成程とは思ったけれど、でもあの埃はいただけないな…。

ここから先のコースは、幹線道路を行くと海から離れてしまうので、当初なるべく海の近くを歩けないかと考えていた。館長に聞いても道は無いと言われ、幹線道路の途中１か所、歩道が無い所があるので注意するように言われた。時間も気になるので、冒険せずに予定の道を行くことにした。地図読みは和子さんにお任せしてしまい、途中バス停のベンチで 16 時 10 分、休憩を取っただけでひたすら歩く。街に入る前、田んぼの稲が黄金色で秋の豊かさを感じた。今日のゴールも昨日と同じ道の駅で異なった方向からのアプローチだったが、見覚えのあるモニュメントを見つけて 17 時 15 分すんなりと目的地の「道の駅いわない」に到着。

ゴールの「道の駅いわない」にて

(蔵田道子 記)

カメ班は、目的地の「道の駅いわない」到着後に、100m のところにある岩内マリンホテルにチェックイン。チーター班は、「道の駅オスコイ！かもえない」でレンタカーを回収して、泊村立泊中学校に移動。18 時 15 分ウサギ班をピックアップして、18 時 35 分に岩内マリンホテル到着。

岩内マリンホテルは、岩内バスターミナルや「道の駅いわない」からも徒歩 2 分ほど、岩内町中心部に位置している、積丹半島やニセコにも近く、観光の中継地点としても便利な立地である。「食事処日本海」を併設しており夕食を摂ったが、地元の食材を使用した日替わりの定食メニューであった。 (坂本徹 記)

≪４日目（９月１５日）≫　天気 曇りのち晴れ：神威岬ー39.5 km→古平町役場

朝食 7 時 00 分から、出発 8 時 00 分。出発後に、味沢さんが朝食前に散歩により発見した宿舎から近くの「夏目漱石在籍地の碑」に立ち寄った。漱石の戸籍が明治 25 年から大正 3 年までの 22 年間も岩内にあった

ことを記念して、戸籍に記されていた場所には記念碑が建てられている。徴兵逃れとの説もあるが、「誰が」「なぜ」「どうして岩内に」など、ナゾは深まるばかりであった。
昨日の歩行ルートを見ながら、本日の出発点の神威岬への国道入口に到着し、チーター班が下車した。

（坂本徹 記）

岩内マリンホテル前にて

夏目漱石在籍地の碑

【チーター班：神威岬国道入口－14.7㎞→島武意海岸展望台】メンバー：坂本徹、岸田英子

9時45分、神威岬への国道入口をスタート。当初計画は、地理院地図上で神威岬から北側の海岸に下りる遊歩道があり、念仏トンネルを通って国道に出るルートを予定したが、前日に通行不可が判明したため、神威岬への道路と国道229号の分岐点をスタート地点とした。

10時05分、通行不可の神威岬からの遊歩道と国道の分岐点にある食堂うしおに到着した。

なぜ念仏トンネルがあるのか疑問であったが、昨日行った神威岬灯台にあった解説案内板を見て理解できた。

スタート地点にて

神威岬灯台

神威岬灯台は、1960年の無人化になるまで、職員とその家族により守られていた。1912年10月に灯台長夫人と次長夫人、その二男（当時3歳）が天長節のお祝いに品物を買うため余別市街に行く途中、荒波に足をさらわれ海中に落ちて溺死したのである。土地の人々はこのような海難事故が再び繰り返されないようにするため、難所を解消しようとしてトンネルの開削が行なわれた。

開削作業は岬の西側と東側の両方から同時に始められたが、測量計画の誤算か開削技術が未熟なためか、トンネルの中央で食い違いが生じ工事が頓挫してしまった。ところが村人たちが犠牲者の供養をふくめ、双方から念仏を唱え鐘を打ち鳴らしたところ、その音で掘り進む方向がわかり工事を再開することができたのである。このようにして1918年11月に開通となり、以来「念仏トンネル」の名となった。

おいら岬の　灯台守りは　妻と2人で沖行く船の
無事を祈って　灯をかざす　灯をかざす
船が来たよと　波のり観れば　ここは北国　吹雪の夜よ
無事を祈って　灯をかざす　灯をかざす

子供の頃に観た映画「灯台守」の映像が、佐田啓二（中井貴一の父）と高峰秀子の夫婦の鮮明な姿とともに、テーマソングが思い出された。

昨日は、ウサギ班でトンネルの中で大きな声で歌った。

食堂うしおに立ち寄り、メニューを見るとうに丼6600円にびっくり。店員から「食事ですか」と尋ねられ、「すみません、お土産を見せてください」と返答。申し訳ないので、地元産原料の蝦夷福神（8種野菜）を買った。

これから歩く砂浜を背景に

10時20分、砂浜に下りて歩行する。波打ち際の歩きは愉しい。海鳥の足跡も残っており、海鳥も歩きやすいところなのだと思いながら進んだ。

11時55分、岩石場になったため、国道に上がっていくところで、草むらの中にきたきつねを発見した。尻尾の毛並みが悪くて、栄養失調であると直ぐに分かった。食物を探しているようで、座ったままで動かなかった。

水平線を眺め、海風を受けながらの砂浜歩きは、リフレッシュできるものであるが、岸田が不調に陥る。

12時15分、昼食休憩となる。岸田は気分悪くなり、しばらく休息しても回復しないため、直ぐ近くに駐車場とトイレがある浜のキャンプ場で、岸田は留まることになった。

13時10分、坂本さん一人でチーター班の目的地に向って出発。島武意海岸岬の駐車場まで速足で進み、レンタカーを回収して14時25分に戻ってきた。

レンタカーに乗って島武意海岸岬の駐車場に14時40分に到着。遊歩道を進んで展望台で美しい海岸線を見て、海岸に下りる。坂本さんに心配をかけましたが、坂本さんは「競歩トレーニングできたよ」とアクシデントに対しても前向きに対処いただきました。岸田は不調となったため、翌日の歩行に支障がないように回復に努めた。

（岸田英子 記）

チーター班のゴール地点にて

ウサギ班のスタート地点にて

【ウサギ班：島武意海岸展望台－11．5㎞→積丹町婦美会館】メンバー：木下隆史、坂本和子

11時00分島武意海岸駐車場に車を停め、早昼を摂る。

カメ班をスタート地点の婦美会館へ送るため車で往復した結果、これから私達が歩くコースは、海岸の遊歩道は熊出没のため通行止め、残りの車道は山の中の一本道で、計画書に書かれていたトンネルは皆無。休憩する所も、トイレも、自動販売機すら無いことが判明。食べる物はしっかり食べ、トイレを済ませ、飲物を買い込んで11時24分出発する。

12時10分左側の道にそれて100m程行った所で、マッカ岬と幌武意漁港を上から眺める。このコース唯一

の海の景色だ。
後は右側を流れる入舸川に沿って緩いアップダウンやカーブを繰り返しながら、変わらない景色の中、ひたすら道道 913 号線を先に進む。車道は日差しを遮るものもなく暑い。途中ちょっとだけ広い道端で 10 分間程立ち休憩を取り、国道に合流後左折して 14 時 33 分婦美会館に到着。
婦美会館は元小学校校舎だがトイレも使えず、ここで車を待っていても仕方ないので、午前中カメ班を送る時に行き過ぎて偶然見つけたレストランまで歩くことに。
道々、刈り取られた後の赤いそば畑を眺めたり、野菜直売所のおじさんと収穫した野菜を見せてもらいながら話をしたりして、多くの動物が放し飼いにされているレストランで迎えの車を待った。（坂本和子 記）

マッカ岬と幌武意漁港を眺める

ウサギ班のゴール地点にて

動物が放し飼いにされているレストラン

カメ班のスタート地点にて

【カメ班：積丹町婦美会館－13.3 km→古平町役場】メンバー：蔵田道子、味沢俊治

今日のコースは、蔵田にとって今までで１番長く、かつ他の班が短いのでピックアップ時にゴールに着けるかどうか気になった。そのことについて、朝、岸田さんと話していて、私自身ゴールまで歩けなくても、味沢さんが歩いてくれれば、コースは繋がると考えて少し気が楽になった。しかし出来ることなら全部歩きたい思いはあり、あとは味沢さんの判断にお任せすることにした。
10 時 42 分、婦美会館を出発。近くの畑の赤い植物は実を刈り取った後のソバだそうだ。ウサギ班がピックアップを待ったレストランの前を通った時、「ソフトクリーム食べます」と味沢さんに聞かれたが、歩き始めたばかりで先のことを考えるとそんな気持の余裕はない。お昼を食べるにはまだ早いし…。
積丹には、過去３回来ており、バスで通った道を歩いて行く日が来るとは考えてもみなかった。しばらく原野と山の斜面に付けられた道をおしゃべりしながら淡々と歩いて、休憩する場所がないかと気にし始めた時、道路脇に小さな空き地を見つけた。ちょうど 12 時だったので 30 分程の昼食休憩とした。昼食後、歩き始めて道は大きくカーブし下って行き、道のセンターラインにガードレールがあった。行く手には美国の街と海が見えた。

実を刈り取った後のソバ畑

街に入って、漁港の側を通る道を行こうと幹線道路を左折して歩いて行くと、ヤマシメ番屋の裏側を通った。表側に回って入り口から覗いていたら、向かいの蔵の前に座っていた女性が声を掛けてきた。味沢さん、

絶対見逃すことなく見学して行くことになり、私にはちょうど良いトイレ休憩となった。味沢さんが見学している間、トイレを済ませた後は、私はその女性とおしゃべりしながら待った。

14 時半、みはらし荘を出発。味沢さんは丸山岬へ海岸伝いに歩いてみると先に行ったが、丸山トンネルの入口付近で蔵田を待っていて、海岸に降りられなかったので、トンネルの出口から岬に行き、海岸に沿って古平漁港沿いの道から本来の道に戻ることになった。そのため別々に歩き、再会できない時はそれぞれにゴールの古平町役場を目指すことになった。

蔵田は 15 時に、丸山トンネルの出口を出て、目標の 16 時までにはゴールに着けそうな見通しがついて、ほっとすると同時に後ろからピックアップに来ないか気になった。15 時 40 分到着。

予定していたニッカウヰスキーの工場見学はどのみち間に合わなかったし、蔵田は１度、行ったこともあったので残念ではなかった。マッサンとエリーさんのお墓を訪れることができただけで満足だった。

（蔵田道子 記）

チーター班は、15 時 15 分に島武意海岸展望台駐車場を出発。婦美会館の 500m 先のレストランにてウサギ班をピックアップし、15 時 55 分古平町役場到着。カメ班をピックアップし、ニッカウヰスキー余市蒸留所に行ったが、閉館時間の 16 時 30 分が迫っていた。売店を見れないかとゲートの守衛に尋ねたが不可であった。

このためプランＢとして、ニッカウヰスキーの創業者の竹鶴政孝（2014 年放映の NHK 朝ドラ「マッサン」の主人公）のお墓参り（余市駅から車で 10 分の「美園の丘の墓地」にあり）をすることになった。お墓の場所は余市蒸留所を見下ろせる位置に鎮座との情報以外は公開されていないため探したが、会津藩士之墓のすぐ上に竹鶴政孝と竹鶴リタのお墓を 16 時 55 分見つけることができた。

竹鶴政孝と竹鶴リタのお墓の前にて

17 時 15 分美園の丘の墓地を出発、17 時 30 分ホテル水明閣に到着した。

「水明閣」は、竹鶴政孝により命名され、活きの良い鮎の塩焼きに専念した料亭が始まりであった。余市川の清流に抱かれながら 80 年を越える歴史を重ね、今日では割烹旅館にシティーホテルの要素を取り入れ、幅広く親しまれる宿である。魅力は後志積丹半島近海の旬の魚介を使った料理であった。

（坂本徹 記）

≪５日目（９月１６日）≫　天気 曇りのち時々雨：古平町役場－47.2 km→ＪＲ小樽駅

8 時 00 分宿舎を出発、ホテル水明閣の前を流れる余市川に鮭が遡上しているとのホテル情報があるため、鮭を見学して 8 時 45 分に古平町役場に到着。（坂本徹 記）

ホテル水明閣の前にて

余市川に鮭が遡上

【チーター班：古平町役場ー22.3㎞→蘭島海水浴場】メンバー：味沢俊治、木下隆史

8時50分皆に見送られて古平町役場出発。前半はトンネルが多いルートで、全行程22.3㎞のうちの1/3、約7㎞はトンネルの中。古平町の街並みを抜けると、まずは古平トンネル168.2m、続けて沖歌トンネル2050.5m。トンネルを出るとすぐに、次の豊浜トンネル2228.5mの入口。左前方の岬には、帰らぬ漁師の主人を待つ犬の遠吠えの姿との伝説がある、セタカムイ岩が見える。

古平町役場隣の恵比寿神社にて

セタカムイの伝説とセタカムイ岩

脇には、平成8年2月の豊浜トンネル崩落事故の防災祈念広場、そこには慰霊碑が建立されている。崩壊箇所は、現在のトンネル入口付近だと思っていたが、後で調べてみると、セタカムイ岩の先、現在では近づけない海沿い断崖の下を通っていた旧道に抜けていた頃のトンネル出口のようである（YouTubeに、崩壊箇所と海岸線旧道の様子、再建の経緯が、迫力ある映像と分かりやすい説明でアップされています）。

＜参考情報：YouTube＞

[【朝日新聞×HTB 北海道150年 あなたと選ぶ重大ニュース】積丹半島の豊浜トンネルで岩盤崩落事故 路線バスなどが巻き込まれ20人死亡 - Bing video]

[北海道 豊浜トンネル崩落事故 映像 1996年 - Bing video]

豊浜トンネル崩落事故の防災祈念広場にある慰霊碑

現在の豊浜トンネルの入口

その後、滝ノ潤トンネル1320.5m、ワッカケトンネル910.0mと続き、最後の梅川トンネル372.0mを抜ける。しばらくすると、道路脇に妙な形の木造物が並んでいるではないか。隣にあったのは造船所で、たまた

ま出てきた作業員の人に聞くと、謎の物体の正体は、特殊プラスチックを流し込む船の型枠とのこと。工場の中を覗くと、型枠を取った大きな船体があり、強烈な刺激臭が充満する中、数人が作業をしていた。

余市町の海岸沿い市街地に到着。少し遠回りになるが余市神社に寄る。かつては、賑わっていたであろうが、今では参道沿いに店もなく、人も車もまばら。願い事が叶うといわれる開運神社であるが、参拝客は一人見ただけ。

余市神社

社殿

神社で昼食をとり 13 時出発。このあたりはニシン漁で栄えた土地で、福原漁場（ぎょば）という、親方から漁夫までが住み込み、漁から加工、製品化まで一連の作業が行われていた、大きな工場のような場所を見学する。往時の生活と繁栄の様子がうかがえた。少し先に、旧下ヨイチ運上家（うんじょうや）という、江戸時代に松前藩からアイヌの人々との交易を請け負った商人の拠点があった。そこにも寄り道する。堅牢な２階建ての建物に、旧家などでみられる日本風庭園がある。冬はかなり寒いのではないかと心配になる。運上家を去り、余市川を渡ってから海岸線沿いの道を進む。目的地に近くなったところで海岸に出て砂浜を歩くことにした。若い家族の集りがテントを張って水上バイクを楽しんでいる。更に進むと、砂浜を横断して海に抜ける川に行きつく。裸足になり渡渉すると冷たくて気持ちがいい。足の疲れが一遍に吹き飛んだ。ようやくゴールの蘭島海水浴場に到着。ゴール地点は少し変更（蘭島海水浴場への入口で国道沿いの元コンビニの駐車場）されていたが、どうにか 16：35 着。　（木下隆史 記）

裸足になり渡渉する

【ウサギ班：蘭島海水浴場－15.7 km→小樽祝津パノラマ展望台】メンバー：坂本徹、坂本和子

11 時 00 分、予定していた蘭島の海水浴場の駐車場がどこも綱を張っていて入れないため、国道沿いの元コンビニの駐車場に変更して車を停める。スタートが 11 時と遅くなってしまったので、左側の海岸へは行かずに国道を進む。

元コンビニ駐車場隣の郵便局にて

桃岩

塩谷トンネル手前にて

忍路トンネルを抜け、桃の種のような形の桃岩を左手に見て、塩谷トンネルを抜けた所で海岸に降りて、

12時00分海を見ながら昼食にする。海岸線は緩いカーブを描きながら、右奥の小さな半島へと続いている。
12時20分広い国道5号線をひたすら東へ歩を進める。緩い上り坂の街路樹には、黄金メタセコイアが植えられていた。国道が右に大きくカーブした先で、左側のやや細い道に入り、迷路のような住宅街を抜けて、小さな峠道を東へと進む。右手側遠方には小樽天狗山スキー場のゲレンデが、左手側の赤岩山の上には電波塔が見えてくる。

15時00分ようやく祝津の海に近付いた頃、チーター班のゴール到着予定時間が1時間程延びるとの情報が入り、我々のピックアップ時間も遅くなるため青山別邸へ向かうことにした。

にしん御殿青山別邸は、ニシン漁で巨万の富を築いた祝津の網元青山家が贅を尽くして建てた別荘で、建物の中へは入らなかったがどこまでも続く長い黒塀と手入れされた庭園が印象的だった。

海岸通りに戻り、保存されているニシン番屋や日和山灯台に立ち寄り、おたる水族館のトド（セイウチ？）の鳴き声を聞きながら、16時10分ゴールのパノラマ展望台に着いた。　（坂本和子 記）

青山別邸

【カメ班：小樽祝津パノラマ展望台ー9.2㎞→小樽駅】メンバー：蔵田道子、岸田英子

10時10分小樽祝津パノラマ展望台の駐車場よりスタート。

カメ班の行動を打ち合わせして、小樽水族館で時間をなるべく取り、小樽の町は翌日散策もあるので立ち寄りはせずに通過することとなった。小樽水族館で、まず観覧車の始発に乗り、ラインへの写真アップにチャレンジした。11時05分からのセイウチのショーからゴマアザラシ、ペンギン、トド、イルカのショーまですべて愉しく見ることができて、大満足した。小樽水族館は海とつながっているため、その良さを発見した。ペンギンは歩いて海に行き、自分で魚を取るようだ。生き物としてグッドな生活である。飼育員たちの解説は、動物からの愛情を得て互いの信頼関係によるもので、明解であった。動物への思いと動物の行動と権利を尊重することは、すぐに得られるものではないと思った。

スタート地点の小樽祝津パノラマ展望台

12時45分水族館を出て、水族館より高いところにある日和山灯台、高島岬を目指した。途中の道路からは遠くに水族館のショーが全望でき、アナウンスもよく聞こえた。ラインの写真アップをしながら、日和山灯台に先に行って昼食をとっていた蔵田さんに追いついた。神奈川県から独り旅の青年に、スマホの使い方を質問しましたが、親切に教えてくれました。高島岬で撮影した写真はなかなかの出来と思った。

14時20分メイン道路の新高島トンネルを通過し、小樽駅へ向かう。

15時25分小樽運河沿いの歴史的建造物に到着。重厚な木骨石造の倉庫群を見ながら歩き、15時50分小樽駅に到着。岸田は昨日不調となったが、予定どおり歩行で

日和山灯台にて

きました。翌日の行動を勘案して、コインロッカーの場所の確認をしたあと、観光案内所にあった小樽観光パンフを見て休憩し、ピックアップを待った。

（岸田英子 記）

重厚な木骨石造の倉庫群

ゴール地点の小樽駅に到着

チーター班は、レンタカーを回収し、17 時 05 分小樽祝津パノラマ展望台に到着。ウサギ班をピックアップし、17 時 20 分小樽駅到着。カメ班をピックアップして札幌市のホテルルートイン札幌北四条へ。

18 時 40 分ホテル到着、坂本徹以外はチェックイン後に、札幌市時計台近くの夕食交流会会場へ（魚々路札幌店～個室完備！極上肉と旨い海鮮）。坂本徹は、オリックスレンタカー札幌駅店にレンタカーを返却して直接夕食交流会懇親会会場へ。19 時 30 分から夕食交流会となり、歩行計画を完歩して感想を出し合いながら交流を深めた。

ホテルルートイン札幌北四条は、大通公園から 800m に位置し、周辺ではさまざまな公共交通機関を利用できる 3 つ星ホテルである。（坂本徹 記）

≪６日目（９月１７日）≫　天気 曇りのち晴れ：小樽市内名所旧跡巡り

ホテルを 7 時 20 分に出発し、徒歩で桑園駅に向かう。桑園駅 7 時 48 分発の電車に乗車し小樽駅 8 時 35 分に到着した。

札幌から電車で約 50 分、小樽駅のコインロッカーに荷物を預け、一日市内名所旧跡巡り。小樽は、石狩湾を北東にのぞむ坂の町。函館本線をはさんで港湾と金融関係の施設の集中する駅下の町と、行政施設と高級住宅地などからなる駅上の町とに分かれる。午前中は駅から小樽警察署のある地獄坂を上がり、山の手地域の浅草観音寺、カトリック教会を訪問する。そのあと、小樽市公会堂と能舞台を見学。前者は後の 1911 年に皇太子の北海道行啓時の宿泊施設として、後者は東日本唯一の能舞台として 1926 年に建てられたもの。それぞれ、20 世紀初頭の小樽の経済界を担った豪商が私財を投じた贅沢な建設物である。それは「北のウォール街」と称された小樽の繁栄を象徴するものでもある。

この豪商が邸宅内に能楽堂を築造した頃、プロレタリア文学作家として著名な小林多喜二は小樽高商を卒業して北海道拓殖銀行小樽支店に勤務していた。彼の作品『1928 年 3 月 15 日』は、初の普通選挙直後の小樽で、治安維持法によって多数の人々が検挙され、取り調べの際に拷問を受けたことに義憤を感じて執筆を決意したという。その凄惨な描写は、組合の仲間から直接取材したものである。『蟹工船』はその翌年発表される。

ホテル前にて

小樽市公会堂

昼食は大人気でおしゃれな寿司屋「寿し処 彩華（小樽出身の寿司職人が小樽の旬を握る）」で、海鮮丼や寿司をいただく。

大人気でおしゃれな寿司屋の海鮮丼と寿司

午後の訪問は小樽運河に沿って並ぶ倉庫群を見てからかつての金融街へ。小樽公園につながる浅草通り沿いには旧日本銀行小樽支店と向き合って、旧証券取引所、旧北海道銀行、旧北海道拓殖銀行がならぶ。もっとも小樽が繁栄した時期、小林多喜二は何を思いこの通りを上がり下がりしたのだろか、ひとしきり考えた。

（味沢俊治 記）

小樽運河を歩く　**木骨石造構造の旧家倉庫にて**　**日本銀行小樽支店にて**

小樽市内名所旧跡巡り（小樽歴史探訪ウォーキング）は、小樽駅から徒歩 30 分のところにある「旭展望台」散策（小樽駅の背後にある標高 190mの高台。眼下に小樽市街や港が開け、遠く石狩湾や増毛連山、積丹半島なども一望できる。近くには小林多喜二の文学碑が立つ）以外は予定どおり辿ることができた。

名所旧跡巡りを終えて、小樽駅 15 時 00 分発のエアポート 162 号に乗車し、新千歳空港駅 16 時 15 分に到着。空港出発ロビーにて解散となり、各自手配している飛行機に搭乗し、帰路についた。（坂本徹 記）

7．参加者感想

【蔵田 道子】

今回のコースは行ったこともある所も多く、初めての新鮮さに欠ける点もありますが、歩いて行くと言う点でまた違った印象や過去の旅の懐かしさを感じました。今回も坂本さんの緻密な計画に脱帽です。欲を言わせてもらえれば、出発時間や到着時間にもう少し余裕が欲しいです。ともあれ、歩行参加前の落ち込んだ気分が上向くきっかけになりました。感謝しています。ありがとうございました。

【味沢 俊治】

今回で海岸線歩行も４回目となります。下北半島は青森から大湊まで、北海道は函館から小樽まで来ました。10 月には下北半島から太平洋へ。若い頃からの山登り仲間であった坂本さんにお会いするたびに、ワンゲルの日本列島海岸線歩行の話をうらやましく聞いていました。ようやく時間がとれるようになった定年退職後、連続で参加させていただいて今に至っています。

以来、私にとっての旅は、ほとんどすべて海岸線歩行となりました。

この旅の醍醐味は何といっても、人々のいとなみに限りなく近づきながら、ゆったりとした速度で現地の空気と肌触りを体感することです。電信柱のあたりまえの看板ですら感興を誘います。そして、詳細な地形図を参照しながら、河川･湖沼・海浜地形、神社･寺院、学校などのひとつひとつに、その過去･現在･未来へ思いをかさねることです。そこには、名所･旧跡巡りの観光旅行とはひと味違って、ダイナミックでディープな体験が存在しています。自分が見込んだ地形を実感し、旧道の町並みの廃屋が喚起するさまざまなものに思いを寄せながら。自分の期待と予想を歩きながら感じる旅であります。

宮本常一が記した旅に生きる人々が定宿したのは、この宿かもしれないと想像力をめぐらせることができる、しあわせな旅であります。

旅に生きる人々が定宿かも

【岸田 英子】

坂本さん、皆さまにご一緒させていただいたこと、感謝と喜びを伝えます。ありがとうございます。

第 2 回に続き参加できました。今回歩行ではゴール地点からスタート地点まで車で移動して状況把握ができた日もあり、往復で“ここね”と確かめられたことはイメージをもち、行動しやすかったです。

泊村の原発ある町の様子、海の生活を失した漁港の姿や生業を、立派な高脚のある道路などからみて想い巡らし、歩きました。原発の建物は新しく立派であり、地元住民の雇用があるのだと感じましたが、原発が福島の地震と津波のことを考えると、事故により処理不能となる原子力エネルギーは求めません。原子力エネルギーに依存しない政策を進めてほしいです。人間の便利優先を考え直してほしいです。

これからの生き方として、食べ物に関する仕事は大切であると考えて行動したいです。また、食料危機がありますので、自給率向上と安心安全な国産の大切さを応援していきたいです。

海岸線歩行では、毎日素敵な体験をすることができ、充実していました。参加して良かったです。ありがとうございます。

札幌・小樽の名所旧跡巡りでは、自分なりに楽しむことができました。好きなものを見つけ、時間をうまく配分できて行動できた時は愉しいものです。最終日のお昼に小樽の寿司屋で食べたウニと白子のにぎりは美味しかったです。

企画大変なところと思いますが、次回第４回もよろしくお願いいたします。

【木下 隆史】

今回６人で歩行したルートを地図上で振り返ると、寿都町から始まり積丹半島全体をぐるりと囲むラインになっています。遠くの地で、これだけの距離を歩いた、という満足感が湧き上がってきます。普段は、こ

れほど長く歩くことがないので、足裏や膝回りに痛みがでて、少しきつかったのですが、久々に、楽しく、充実した時間を過ごせました。

しばらくぶりの団体行動でした。毎日、言われるとおりにしていれば良いので楽だなとも思いながら、ペースを合わせるために余裕がなくなり、若干戸惑うこともありました。それでも、長い間、旅行は家族ですることがほとんどだったため、メンバーや地元の人との新しい出会いがとても新鮮でした。

地元の人以外は自動車で通過してしまう道をわざわざ歩くという、よっぽど物好きでなければやらない体験ができたのは、「日本の海岸線を歩く」という旗を掲げてくれた人、そしてそこに集まる人がいなければできなかったことです。この偶然に巡り合うことができたことに感謝したいと思います。私にとって、いつまでも心に残る人生の大切な思い出になることと確信しています。

最後に、今回、６人もの人が毎日楽しく行動できるよう、念入りに旅の計画、準備をしてくれた坂本ご夫妻に感謝いたします。また、一緒に楽しい時間を共有していただいた岸田さん、蔵田さん、味沢さん、本当にありがとうございました。

【坂本 和子】

私が抱いていた後志方面の日本海のイメージは、穏やかな砂浜ではなく神威岬に象徴されるような断崖続きというものでしたが、やはり大きくはずれてはいなかったようです。

インディアン水車

海岸に沿って道路が縫うように続き、トンネルと小さな漁港が次々と現われるといった少し寂れたイメージ。

その中で、かつてのニシン漁や北前船で栄えた港は往時の繁栄の名残りが感じられ、番屋やレンガ造りの倉庫には、今では見る影もない賑わいを彷彿とさせるものがありました。

そして何と言っても「積丹ブルー」と称される深く澄んだ海の青。加えて大陸に向って後ろ髪を引かれるかのような神威岬の岩の並びが、義経とチャレンカの悲恋のエピソードを生んだ所以なのかと漠然と感じました。

又、早朝に見た余市川を遡上する鮭の群れは、(後日個人的に千歳川のインディアン水車でも見る事ができたのですが)本能とはいえ最後の命を全うしようとする懸命でひたむきでちょっと切ない姿に、久し振りに長い時間目を離すことが出来ませんでした。

今回は３班編成で車を計画的に移動させたため、自分の担当ではないコースも車でナゾルことが出来、又他班からリアルタイムで情報や写真が刻々とラインにアップされ、何となく全てのコースを見たような、歩いたような？満足感があります。

日によっては、海から離れた車道や長いトンネル歩きもありましたが、今回の旅で初めてお会いする方と日替わりでパートナーとして歩行を共にすることが出来、私にとってはとても有意義な時間となりました。ありがとうございました。

【レンタカー】

ニッサン セレナ、装備：ETC　禁煙 ナビ 4WD ABS

733㎞を走行しました。

レンタカー曰く「第３回歩行は計画どおり完歩し、お役に立てて嬉しいです！」